

介助犬のフン処理のための自助具の製作

1 相談内容

相談者が日常生活で介助犬の世話をを行うとき、特にフンの片付けが大変で、市販のフンを受ける道具で処理を行っています。しかし携帯できず、カバンに入らないため持ち歩きに困っているとの相談があり、その道具の機能はそのままに携帯できるように折りたたみ式にしてほしいと要望されました。

2 利用者プロフィール

30代女性、頸髄損傷(C6-7 不全)のため四肢体幹機能障害のある方で身体障害者手帳1級です。移動には自走式車いすを使用しています。また左右とも握力は低く、日常生活では日々、自助具を使用しています。

3 対応

これまで使っていた市販のフンを受ける道具を改造して、介助犬のフン処理のための自助具を製作することにしました。本人はまず、この自助具をカバンから取り出して、柄をまっすぐに伸ばします。そして、円の部分にポリ袋をつけてから、介助犬のフンを受けて処理を行います。フンを処理した後は、折りたたんでカバンに収納することができます。



完成したフン受け道具(折りたたみ時)



使用中の様子

4 結果

本人は、問題なく使用することができました。フンを処理する際の不安がなくなり、外出時には、いつでも使うことができるようになったと好評でした。